

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 117号

2014/11/4 発行  
株式会社 立花商店  
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：両市場とも5～6%の大幅下落＝コートジのカカオ豆供給量安定による

① 最高3月 LDN 市場£1,913 /12月 NY 市場\$2,970 (10/27) 先週比 **LDN-£118/NY-\$150**  
② 最低：3月 LDN 市場£1,884 /12月 NY 市場\$2,899 (10/28,31) 先週比 **LDN-£139/NY-\$151**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£29 (傾向↑) / NY 市場\$71 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 240,158枚(10/24終了時)⇒245,527枚(10/30終了時) **+5,369枚**  
NY市場 198,672枚(10/24終了時) ⇒188,027枚(10/30終了時) **-10,645枚**

#### 【10月27日(月)】ニューヨーク、ロンドンとも続落

ニューヨーク市場のココア先物は続落。12月きりは80ドル(2.6%)安の**2970ドル**で引けた。一時は、5月以来の安値の2957ドルまで下げた。コートジボワールからのカカオ豆の豊富な供給が、引き続き相場の重しとなった。主要な支持線の3020ドルを割り込んだことで、ロングの解消と新規のショートを誘発した。ロンドン市場の3月きりも続落し、47ポンド(2.4%)安の**1913ポンド**で引けた。

#### 【10月28日(火)】両市場とも続落

ニューヨーク市場のココア先物は続落。西アフリカでの潤沢なカカオ豆生産が相場を圧迫した。12月きりは47ドル(1.6%)安の2923ドルで終了。一時5月19日以来の安値となる2914ドルを付けた。ロンドン市場の3月きりも続落、29ポンド(1.5%)安の**1884ポンド**で引けた。

#### 【10月29日(水)】両市場とも4日ぶり反発

ニューヨーク市場は4営業日ぶりに反発。12月きりは序盤の下げから切り返し、14ドル高の2937ドルで引けた。ロンドン市場も4営業日ぶりに反発。3月きりは10ポンド高の1894ポンドで取引を終えた。

## 【10月30日(木)】続伸

続伸。ニューヨーク市場の12月きりは9ドル高の2946ドル、ロンドンの3月きりは18ポンド高の1912ポンドで引けた。供給見通しの改善や、需要拡大の弱さが圧迫材料。

## 【10月31日(金)】ニューヨーク、ロンドンとも反落

ニューヨーク市場は反落し、約5カ月半ぶり安値を付けた。ドルが急騰したほか、供給量が潤沢なことが背景。12月きりは47ドル(1.6%)安の2899ドルで終了。ロンドン市場も反落し、3月きりは20ポンド(1%)安の1892ポンドで引けた。

## 2、ナイジェリア：産油国としてだけでなく、カカオ生産国としても注力(10/29)

ナイジェリアの貿易投資委員の大臣である Aganga 氏は、ナイジェリアがオイル産業のみに頼らず収入源の多様化を目指すための”Goodluck Jonathan’s transformation agenda”の中で、以下の通り述べた。

「1960~70年代のナイジェリアは世界でも有数なカカオ生産国であった。そして現在でも依然として高い生産量を誇るが、カカオ豆の輸出から得られる報酬は十分とは言えない。

収穫されるカカオ豆を金額ベースで評価するとおおよそ100万ドルに相当するが、チョコレートにして付加価値を加えると、その評価額は10倍の1000万ドルを超える。それでも農家はそのうちのほんの一部の利益しか享受していない。」

ナイジェリアの農業省の Akinwunmi Adesina 氏は「ナイジェリアがカカオ産業において国際的なプレーヤーになる為に必要なカギとなる要素は、簡略化された分かりやすい計画である。」と述べている。

「計画は2015年までに国のカカオ豆生産量を25万トンから50万トンへと伸ばすという明確な戦略を持っている。またこの計画はココアバターやカカオマス、チョコレートのような製品を製造するなど、いかにして国が付加価値を加えていくかを検証することも含んでいる。」

毎年チョコレートは800億ドル規模の市場がある。しかし西アフリカの農家はその市場規模のわずか3~6%ほどの利益しか得ていない。

## 3、コートジ：十分な日光照射でカカオ豆生産地で豆の乾燥工程進む(10/31)

世界最大のカカオ豆生産国のコートジのカカオ生産地では、十分な日光照射で空気が乾燥しておりカカオ豆の乾燥が進んでいる。

コートジの商業の中心地であるアビジャンを拠点に農業を専門的に扱う CICO サービス社によると、コートジの15の地域では10月20~26日の一週間で平均4.1ミリの雨が降り、その前の週の5.9ミリよりも減少した。また平均気温は31度で平常並みであった。

コートジボワールの Aboisso 地区で 8 ヘクタールもの農園を所有している Soumahoro 氏は「太陽が照っていてカカオ豆の乾燥に非常に効果的だ。この 10 日間では 4 日に 1 回の頻度で雨が降る。」と述べた。

ロンドン先物相場は今年 11%上昇した。コートジボワールの収穫量は 2013/14 期よりも 8.1%減少し 160 万トンになる見通しである。

リベリアの国境近くの Yepleu 村で 13 ヘクタールの農地を持つ農家は「ここ最近の天候はカカオの生育に良い。日中は気温が上がり夜は冷え込む。そのおかげで一部のカカオポッドは熟しており、他もまだ緑色だがいずれ熟すだろう。」と述べた。

#### 4、カカオ飲料で 60 代の人々の記憶力が 30~40 代の水準に若返る！？ (10/30)

以前には知られていなかったようなカカオの効用を研究している団体の発表によるとカカオは年齢に関する物忘れの症状を遅らせたり、記憶をよみがえらせるといった働きがあるとされている。

一部の科学者はカカオ豆に含まれる抗酸化作用を示すフラボノイドの効果で、60 代の人々の記憶力が 30~40 代の人々の標準的な記憶力に戻ると考えている。

ニューヨークのコロンビア大学病院でなされている研究では、高齢の人々が知り合いの名前を度忘れしたり、カギをどこに置いたかを忘れていたりといったよくある記憶力の低下の問題が、日常の食事の変化によって引き起こされることの根拠を示している。

50~69 歳の年齢の人々を 37 人集め 2 つのグループに分けた。1 つ目のグループには毎日大量(900mg)のフラボノを含むドリンクを与え、もう一方は毎日 10mg のフラボノを含むドリンクを与えた。

3 か月後、フラボノを大量に摂取したグループの人々には早々にはっきりとした変化が現れた。脳のスキャン画像を実験の前後で比較すると、被験者は新しい脳細胞を生み出すとされる脳のいくつかの箇所において血液量の増加がみられた。

Scott 医師は「もし被験者がテスト前に 60 代における標準的な記憶力を持っていたとしたら、3 か月の実験後は 30~40 代の平均的な記憶力を有したことになる。」と述べた。

また別の知覚神経の専門医である Jansari 医師は「世界的に高齢化が進んでいる現状を考えると、カカオ豆の効果を述べている論者は、我々の知覚・認識健康学において多大な貢献をしたことになる。」と述べている。

オンライン上で定期刊行されているネイチャーのニューロサイエンスで発表された研究は、心臓血管系にもカカオの効果があることを示している。

しかし専門家は上記の効果を示しながらも、人々はより多くのチョコレートを食べるべきだとは言及していない。なぜなら実験で用いられたココア飲料は、カカオ豆から特別に作られたものでありチョコレートとは異なる為である。

しかしこうした研究はカカオの効果が認知症にもみられるとは述べていない。認知症と高齢による物忘れの要因は異なる為である。

イギリスのアルツハイマーの専門医である Ridley 医師は「今回の実験はあくまでも短期間のみみられた効果であり、カカオに含まれるフラボノにのみ焦点を当てている。しかし我々はフラボノを投与され続けると、記憶力が改善されるのかという点を本当に充分に実証するには、より長期的にまた本格的な検証をする必要がある。」と述べている。

## 5、コートジ：カカオ製品の輸出量 4%上昇=2013/14 期（10月～9月）（10/30）

コートジで生産されたカカオ製品（カカオマス、ココアバター、チョコレート）の輸出量は、2013/14 期の最初の 10 か月と比較し、4%上昇し 33 万 7171 トンとなった。

世界最大のカカオ豆生産国のコートジでは、カカオ豆の収穫は 10 月から 9 月までで区切られる。コートジではカカオ豆の加工設備、磨砕設備への投資が進み、2008 年以降国内での磨砕量が増加している。

2010 年には、西アフリカの磨砕量がオランダを抜き、年間磨砕量=53 万 2000 トンと世界でトップとなった。

西アフリカで加工するカカオ豆は主にココアパウダーとココアバターになる。

コートジは、国内で生産されたカカオ豆の約 35%を国内で加工しているが、昨シーズンから改革に乗り出し年間生産量（約 140 万トン）の約半分を国内にて加工することを目指している。

カカオ豆生産量	2014 年 7 月	2014 年 6 月	2013 年 7 月	（単位：トン）
アビジャン	17,386	20,123	18,976	
サンペドロ	14,173	14,095	13,855	
<hr/>				
合計	31,559	34,218	32,831	
累計	337,171	305,612	323,369	
<hr/>				
<b>ココアパウダー輸出量</b>				
アビジャン	1,954	2,782	1,299	
<hr/>				
<b>ココアバター輸出量</b>				
アビジャン	5,001	5,752	5,494	
<hr/>				
<b>チョコレート輸出量</b>				
サンペドロ	0	0	0	

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp